

経済学と経営学の視点から見た 中小零細企業の事業再生

(〇〇〇〇セミナー / 主催：〇〇〇〇)

講演の要旨

ミクロ経済学の大前提である合理性仮説は、時として修正を余議なくされる。感情を加味して行動を考察する行動経済学は、ひとつのヒントを示している。経済学における企業活動は利潤極大化であるが、中小零細企業の場合には、必ずしも合理的な意思決定ができていない場合も少なくない。経済学・経営学の視点から、中小零細企業の事業再生の問題点を指摘する。

講演の概要

1、ミクロ経済学の視点から

- (1) 不確実性下の意思決定 ・くじ ・事業再生へのあてはめ
- (2) リスクに対する態度 ・リスク中立的とリスク回避的 ・リスクプレミアム

2、行動経済学の視点から

- (1) 最後通牒ゲーム
- (2) 非合理的な行動 ・額と率で選択が変わらないのか ・率の判断は妥当なのか
・メンタルアカウンティング
- (3) プロスペクト理論 ・参照点依存性 ・損失回避性 ・リスク態度の非対称性
・利得の満足と損失の不満足

3、事業再生における銀行の立場と経営者の立場

- (1) 情報の非対称性 ・情報の差による市場の失敗 ・交渉決裂リスク
- (2) 経営者との利得配分 ・経営者のヤル気 ・ホールドアップ問題 ・窮鼠ネコを噛む
・異時点間の利得配分

資料 ・専用レジュメ

参考書 ・

講師：高 橋 隆 明 **URL**：http://www.chiyoda-cmt.com

略歴：㈱千代田キャピタルマネージメント代表取締役。不動産鑑定士・税理士。博士(経済学)・博士(経営学)。1955年東京生まれ。78年早稲田大学法学部卒業、大手自動車製造会社に本社採用で入社。生産管理を担当の後、損害保険会社に転籍。国際業務部門で活躍し、社命によりドイツに留学。帰国後、再度の社命によりイギリス、フランス、スペイン、イタリア等ヨーロッパ各国にも留学。その後、融資部に転じ審査課長、業務課長として融資実行審査、不良債権回収の責任者の職を歴任。同社を退職後、事業再生コンサルタントとして活躍。

回収責任者としての経験を活用して金融機関対策を行うとともに、別会社への事業継承などによる事業再生を成功させている。再生に関わったいくつもの別会社の社長業務も引き受けている。英語、ドイツ語の能力を活かし外資系企業との直接取引も積極的に行っており、多角的見地から再生コンサルティングを実践している。大学院(博士前期課程)で学位(不動産学)を取得し、大学の経済学部非常勤講師を経て05年からは客員教授として実務経験を活かした指導を行っている。不動産鑑定士・税理士として税務・不動産鑑定業務もやっている。「担保評価一覧表」は実用新案登録済(第3098583号)。事業再生に関する経済学の分野における研究に対し、東洋大学から博士(経済学)の学位を授与された。さらに経営学の分野における別の研究に対し、作新学院大学から博士(経営学)の学位を授与された。

出版物：事業再生を中心に次のような多数の書籍を公表している。この他にも多くの学術論文・学会発表を行っている。

- 『リスク(返済猶予)に頼らない事業再生のすすめ』(平成25年5月)
- 『事業再生に伴い、残った借入金と会社の処理の仕方』(平成25年1月)
- 『どうしたら銀行に債権放棄をしてもらえるか』(平成24年4月)
- 『改訂版、法的整理に頼らない事業再生のすすめ』(平成23年9月)
- 『不良債権をめぐる債権者と債務者の対立と強調』(平成23年6月)
- 『本物の事業再生はこれだ』(平成22年3月)

… その他著書・論文多数